

科目名: ソフトウェア工学 a				
英文名: Software Engineering a				
担当者: 杉谷誠弥			開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。			アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
			ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修		
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「ガイダンス及びソフトウェア工学とは」 [予習内容]:教科書第 1 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「ソフトウェアのライフサイクルと開発プロセスモデル」 [予習内容]:教科書第 2 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「プロジェクト管理」 [予習内容]:教科書第 3 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「要求獲得と要求分析」 [予習内容]:教科書第 4 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「要求種別と様々な仕様化ツール」 [予習内容]:教科書第 5 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「品質を上げるためのモデル化技法」 [予習内容]:教科書第 6 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「第 1 週から第 6 週までの復習 I」 [予習内容]:第 1 週から第 6 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「第 1 週から第 6 週までの復習 II」 [予習内容]:第 1 週から第 6 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「答案返却、解説」 [予習内容]:これまでの授業内容を復習し理解すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第10週 「UML 図作成演習 I」 [予習内容]:UML 図について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第11週 「UML 図作成演習 II」 [予習内容]:UML 図について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第12週 「UML 図作成演習 III」 [予習内容]:UML 図について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第13週 「要求仕様書の書き方 I」 [予習内容]:教科書第 7 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第14週 「要求仕様書の書き方 II」 [予習内容]:教科書第 7 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第15週 「第 10 週から第 14 週までの復習」 [予習内容]:第 10 週から第 14 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 10 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>			<p>■授業概要・方法等 ソフトウェアを開発、運用、保守する上で重要な概念や技術について学びます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <p>1.(B-G1)(B-1)ソフトウェアについて理解する。 2.(B-G1)(B-1)ソフトウェア開発のプロセスモデルを理解することができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に關与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験:答案返却・解説でフィードバックします。 課題:Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書 ソフトウェア工学の基礎, 神長裕明ほか, 共立出版</p> <p>■参考文献 なし</p> <p>■関連科目 プログラミング言語 II、情報演習</p> <p>■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2 回) 方式:記述式 定期考査成績:定期試験(100%)によって評価します。 最終成績:定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス s-sugitani@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: ソフトウェア工学 b			
英文名: Software Engineering b			
担当者: 杉谷誠弥		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「答案返却、解説及びガイダンス」 [予習内容]:前期の授業内容を復習すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「基本的な設計概念および原理 I」 [予習内容]:教科書第 8 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「基本的な設計概念および原理 II」 [予習内容]:教科書第 8 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「構造化分析設計 I」 [予習内容]:教科書第 9 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「構造化分析設計 II」 [予習内容]:教科書第 9 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「プログラミングとツール」 [予習内容]:教科書第 10 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「レビュー」 [予習内容]:教科書第 11 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「テスト計画とテストデータの作成 I」 [予習内容]:教科書第 12 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「テスト計画とテストデータの作成 II」 [予習内容]:教科書第 12 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第10週 「テスト技術 I」 [予習内容]:教科書第 13 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第11週 「テスト技術 II」 [予習内容]:教科書第 13 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第12週 「テストの実施」 [予習内容]:教科書第 14 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第13週 「ソフトウェアの進化」 [予習内容]:教科書第 15 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第14週 「ソフトウェア工学の貢献と課題」 [予習内容]:教科書第 16 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第15週 「第 1 週から第 14 週までの復習」 [予習内容]:第 1 週から第 14 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 ソフトウェアを開発、運用、保守する上で重要な概念や技術について学びます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(B-G1)(B-1)ソフトウェアについて理解する。 2.(B-G1)(B-1)ソフトウェア開発のプロセスモデルを理解することができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に關与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験:答案返却・解説でフィードバックします。 課題:Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書 ソフトウェア工学の基礎, 神長裕明ほか, 共立出版</p> <p>■参考文献 なし</p> <p>■関連科目 プログラミング言語 II、情報演習</p> <p>■成績評価方法および基準 種類:定期試験(1 回) 方式:記述式 定期考査成績:定期試験(100%)によって評価します。 最終成績:定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上~90 点未満「優」、70 点以上~80 点未満「良」、60 点以上~70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 3 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス s-sugitani@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15~13:00)</p>	

科目名: 言語理論とオートマトン a			
英文名: Language Theory and Automaton a			
担当者: 本田 康子		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 ガイダンス・オートマトンとは何か [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 2 週 数学的準備(集合) [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 3 週 数学的準備(写像) [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 4 週 (決定性)有限オートマトン [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 5 週 状態遷移図と状態遷移表 [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 6 週 非決定性有限オートマトン [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 7 週 空動作のある非決定性有限オートマトン [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 8 週 まとめと復習・試験前演習 [予習内容]: 第1週から第7週で学習した内容を調べること [復習内容]: 全体の演習問題を解き、授業内容を理解すること</p> <p>第 9 週 答案返却・解答 [予習内容]: テスト内容を確認し、疑問点を明らかにすること [復習内容]: テスト内容を復習し、理解すること</p> <p>第10週 最簡形の決定性有限オートマトン [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第11週 有限オートマトンで受理できない言語 [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第12週 (決定性)プッシュダウンオートマトン [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第13週 非決定性プッシュダウンオートマトン [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第14週 dpda と npda [予習内容]: 教科書の対応ページを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第15週 まとめと復習・試験前演習 [予習内容]: 第8週から第14週で学習した内容を調べること [復習内容]: 全体の演習問題を解き、授業内容を理解すること</p> <p>定期試験 第1回から第15回までの授業内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 理論計算機科学の一つの大きな柱であるオートマトン理論について学びます。特に、計算モデルとして最も基本的なオートマトンである有限オートマトン、プッシュダウンオートマトンを取り上げ、それぞれの言語受理能力について学習します。課題は、Google Classroom 等のクラウドサーバを活用して双方向型で提出管理、指導、自主学习支援を行います。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1)(B-1) 状態遷移図や様相を通して各種オートマトンの動作を理解する。 2. (B-G1)(B-1) アルゴリズムに従って、最簡形の決定性オートマトンを構成する。 3. (B-G2)(B-2) オートマトン・言語理論の基礎を理解して、モデルを構築する能力を身に付ける。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー Bの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行います。小テストや再試の返却、授業中に解答しきれなかった課題については Google Classroom 等のクラウドサーバを用いてコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書 米田政明 他 共著「オートマトン・言語理論の基礎」 近代科学社 ISBN 978-4-7741-9327-4</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験の結果(80%), 演習課題(10%), 小テスト(10%)で評価します。課題レポートがある場合に未提出の場合や授業態度・出席状況が悪い場合は、成績から減点します。 最終成績: 定期考査成績の平均で評価します。90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3号館 2階情報処理教育センター教員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス 本田: honda@kctc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 本田: 授業実施日の 16:30～17:00</p>	

科目名: 言語理論とオートマトン b			
英文名: Language Theory and Automaton b			
担当者: 本田 康子		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修単位	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 答案返却・解答 [予習内容]: 試験内容について疑問点を確認しておくこと [復習内容]: 試験内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 2 週 ガイダンス・命題とは [予習内容]: 命題とは何かについて定義を確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 3 週 否定命題 [予習内容]: 否定文の作り方について確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 4 週 連言命題 [予習内容]: AND(論理積)の考え方を確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 5 週 選言命題 [予習内容]: OR(論理和)の考え方を確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 6 週 論理式の標準型① [予習内容]: 論理式とは何かを確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 7 週 論理式の標準型② [予習内容]: 標準型定理について確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 8 週 含意命題① [予習内容]: 「A→B」の考え方を確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第 9 週 含意命題② [予習内容]: 含意命題の例文を確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第10週 推論と推論規則① [予習内容]: 推論とは何かについて確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第11週 推論と推論規則② [予習内容]: 推論規則について確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第12週 ナザレ人とクレタ人① [予習内容]: ナザレ人とクレタ人の定義を確認しておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第13週 ナザレ人とクレタ人② [予習内容]: ナザレ人とクレタ人の発言内容を記号化できるようにしておくこと [復習内容]: 授業内容を復習し、理解しておくこと</p> <p>第14週 試験前演習 [予習内容]: 第 2 週～第 13 週までの内容を確認しておくこと [復習内容]: 演習問題を解き、内容を理解しておくこと</p> <p>第15週 答案返却・解答 [予習内容]: テスト内容を確認し、疑問点を明らかにすること [復習内容]: テスト内容を復習し、理解すること</p> <p>定期試験 第 1 回から第 15 回までの授業内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 コンピュータ・サイエンスに必要となる数学的な概念・記法・論法の基礎を学習します。数学記号や図を用いて論理的な分析や説明を行う技法を身につけ、それらの数学技法を電子情報通信分野の具体的な話題と関連させ、理解を深めます。課題は、Google Classroom 等のクラウドサーバを活用して双方向型で提出管理、指導、自主学習支援を行います。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1)(B-1) 様々な論理記号を用いて命題を記号化する技法を習得する。 2. (B-G1)(B-1) 集合演算ができ、命題相互間の関係を記述することができる。 3. (B-G2)(B-2) 標準型定理を理解し、様々な論理式を標準型で表すことができる。 4. (B-G2)(B-2) 三段論法を用いて論理的な推論ができる。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行います。また、小テストや再試の返却、授業中に解答しきれなかった課題については Google Classroom 等のクラウドサーバを用いてコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書 なし(必要に応じてプリントを配布します。)</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回), 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験の結果(80%), 演習課題(10%), 小テスト(10%)で評価します。課題レポートがある場合に未提出の場合や授業態度・出席状況が悪い場合は、成績から減点します。 最終成績: 定期考査成績の平均で評価します。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階情報処理教育センター教員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス honda@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 授業実施日の 16:30～17:00</p>	

科目名: ネットワーク工学 a			
英文名: Network Engineering a			
担当者: 川上 申之介		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 天文学研究員として国立研究所に勤務. 制御ソフトウェア開発を担当.		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 ガイダンス、ネットワーク・アーキテクチャ [予習内容]: (60 分) ネットワーク・アーキテクチャについて調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 2 週 OSI 参照モデル基礎 [予習内容]: (60 分) OSI 参照モデルについて調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 3 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 4 週 ネットワーク関連の標準化機関 [予習内容]: (60 分) 標準化機関について調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 5 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 6 週 LAN, イーサネットの方式概要 [予習内容]: (60 分) LAN について調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 7 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 8 週 答案返却、解説 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 9 週 ベースバンド信号の符号化 [予習内容]: (60 分) 符号化について調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 10 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 11 週 1000BASE-T, TX, 10Gbps イーサネット [予習内容]: (60 分) イーサネットについて調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 12 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 13 週 スイッチング HUB, VLAN, スパニングツリープロトコル [予習内容]: (60 分) VLAN について調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 14 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 15 週 答案返却、解説 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し、理解すること</p> <p>定期試験 (試験時間 50 分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等 技術者をめざす高専の学生を対象に、近代科学に対応する基礎学力の向上のため、現在のネットワーク工学の基礎を重点的に学習します。 研究現場での実務経験をもとに、上記の内容について解説します。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1)(B-1) 構造化配線システム、IP アドレス計算、ルーティングについて理解する。 (B-G1)(B-1) 第 4 層、応用層の用語を通じて近年のネットワーク技術の動向について理解する。 ことができるようになります。 <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 授業中に実施する課題は、毎回解説をします。定期試験は定期試験後に要点と解説をします。</p> <p>■ 教科書 教科書 「ネットワーク工学」 村上泰司 著 森北出版</p> <p>■ 参考文献 「わかる AI・DD 総合種[技術・理論] 第 3 版」 リックテレコム</p> <p>■ 関連科目 通信工学</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回), 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験 100% で評価します。 最終成績: 定期考査成績を平均して評価します。 90 点以上「秀」、80 点以上 90 点未満「優」、70 点以上 80 点未満「良」、60 点以上 70 点未満「可」、60 点未満「不可」 最終成績: 定期考査成績の平均とする。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。</p> <p>■ 教員所在場所 入試部</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 10 月に実施します。</p> <p>■ メールアドレス kawakami@kct.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 水曜日 9 限目</p>	

科目名: ネットワーク工学 b			
英文名: Network Engineering b			
担当者: 川上 申之介		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 天文学研究員として国立研究所に勤務. 制御ソフトウェア開発を担当.		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	後期 コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 構造化配線システム [予習内容]: (60 分) 構造化配線システムについて調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 2 週 通信回線の種類, 標本化定理, A/D・D/A 変換 [予習内容]: (60 分) A/D・D/A 変換について調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 3 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 4 週 IP アドレスとサブネットマスク [予習内容]: (60 分) IP アドレスとサブネットマスクについて調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 5 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 6 週 ルーティングとその他のルータの機能 [予習内容]: (60 分) ルーティングについて調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 7 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 8 週 答案返却, 解説 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 9 週 DHCP, IP version6 [予習内容]: (60 分) DHCP, IP version6 について調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 10 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 11 週 ドメイン名と DNS [予習内容]: (60 分) ドメイン名と DNS について調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 12 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 13 週 仮想私設ネットワーク, 広域イーサネット, IP-VPN [予習内容]: (60 分) IP-VPN について調べること [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 14 週 課題演習 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること</p> <p>第 15 週 答案返却, 解説 [予習内容]: (60 分) これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]: (30 分) 授業内容を復習し, 理解すること 定期試験 (試験時間 50 分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等 技術者をめざす高専の学生を対象に, 近代科学に対応する基礎学力の向上のため, 現在のネットワーク工学の基礎を重点的に学習します。研究現場での実務経験をもとに, 上記の内容について解説します。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (B-G1)(B-1) 構造化配線システム, IP アドレス計算, ルーティングについて理解する。 2. (B-G1)(B-1) 第 4 層, 応用層の用語を通じて近年のネットワーク技術の動向について理解する。 ことができるようになります。 この科目の履修は, 本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 授業中に実施する課題は, 毎回解説をします。定期試験は定期試験後に要点と解説をします。</p> <p>■ 教科書 教科書 「ネットワーク工学」 村上泰司 著 森北出版</p> <p>■ 参考文献 「わかる AI・DD 総合種 [技術・理論] 第 3 版」 リックテレコム</p> <p>■ 関連科目 通信工学</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 定期試験 (2 回), 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験 100% で評価します。 最終成績: 定期考査成績を平均して評価します。 90 点以上「秀」、80 点以上 90 点未満「優」、70 点以上 80 点未満「良」、60 点以上 70 点未満「可」、60 点未満「不可」 最終成績: 定期考査成績の平均とする。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習 (予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。</p> <p>■ 教員所在場所 入試部</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 2 月に実施します。</p> <p>■ メールアドレス kawakami@kct.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 水曜日 9 限目</p>	

科目名: マルチメディア工学 a			
英文名: Multimedia Engineering a			
担当者: 杉谷 誠弥		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「ガイダンス及び情報メディア工学」 [予習内容]: 情報メディア工学について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「人間の知覚のしくみⅠ」 [予習内容]: 目のしくみと特性について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「人間の知覚のしくみⅡ」 [予習内容]: 耳のしくみと特性について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「自然言語処理Ⅰ」 [予習内容]: かな漢字変換について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「自然言語処理Ⅱ」 [予習内容]: 形態素解析について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「自然言語処理Ⅲ」 [予習内容]: 構文分析について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「自然言語処理Ⅳ」 [予習内容]: 意味解析について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「自然言語処理Ⅴ」 [予習内容]: 機械翻訳について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「答案返却、解説」 [予習内容]: これまでの授業内容を復習し理解すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第10週 「自然言語処理Ⅵ」 [予習内容]: フルテキスト検索について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第11週 「自然言語処理Ⅶ」 [予習内容]: ホームページ記述言語について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第12週 「音声分析」 [予習内容]: 音声と周波数について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第13週 「音声メディア」 [予習内容]: 音声メディアについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第14週 「音楽メディア」 [予習内容]: 音楽メディアについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第15週 「第 10 週から第 14 週までの復習」 [予習内容]: 第 10 週から第 14 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 10 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等 音声、画像、文字に関し、各メディアの基礎的な特性と情報処理技術に関して理解します。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1) (B-1) メディアの基礎的知識を習得する。 2. (B-G1) (B-1) 音声、画像、文字に関する情報処理を理解することができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に關与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験: 答案返却・解説でフィードバックします。 課題: Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■ 教科書 美濃導彦・西田正吾 共著「情報メディア工学」オーム社</p> <p>■ 参考文献 なし</p> <p>■ 関連科目 計算機システム、プログラミング言語Ⅱ、プログラミング言語Ⅲ、工学実験 (3、4 年)</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回) 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%)によって評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこと。</p> <p>■ 教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■ メールアドレス sugitani@kct.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: マルチメディア工学 b			
英文名: Multimedia Engineering b			
担当者: 杉谷 誠弥		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授業概要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「答案返却、解説及びガイダンス」 [予習内容]: 前期第 10 週から第 14 週の内容について調べる こと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「画像処理 I」 [予習内容]: 画像改善について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「画像処理 II」 [予習内容]: 領域分割について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「画像処理 III」 [予習内容]: 画像認識について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「文字の認識と合成」 [予習内容]: OCR について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「図面・地図の処理」 [予習内容]: 図面・地図の内部表現について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「3 次元の認識」 [予習内容]: CV について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「コンピュータグラフィックス I」 [予習内容]: 2DCG の幾何学的変換について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「コンピュータグラフィックス II」 [予習内容]: 3DCG のモデリングについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 10 週 「コンピュータグラフィックス III」 [予習内容]: 3DCG のレンダリングについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 11 週 「コンピュータグラフィックス IV」 [予習内容]: 3DCG の投影変換について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 12 週 「映像理解」 [予習内容]: ダイナミックプログラミングについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 13 週 「感性情報処理」 [予習内容]: SD 法について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 14 週 「第 1 週から第 7 週までの復習」 [予習内容]: 第 1 週から第 7 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 15 週 「第 8 週から第 14 週までの復習」 [予習内容]: 第 8 週から第 14 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験 時間 50 分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等 音声、画像、文字に関し、各メディアの基礎的な特性と情報処理技術に 関して理解します。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1) (B-1) 画像に関する基礎的情報処理技術について理解する。 2. (B-G1) (B-1) 各メディアの入出力機器や情報圧縮技術について理解 する。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマボリン ーBの達成に参与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験: 答案返却・解説でフィードバックします。 課題: Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■ 教科書 美濃導彦・西田正吾 共著、「情報メディア工学」、オーム社</p> <p>■ 参考文献 なし</p> <p>■ 関連科目 計算機システム、プログラミング言語 II、プログラミング言語 III、工学実 験 (3、4 年)</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 定期試験 (1 回) 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%)によって評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満 「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこ と。</p> <p>■ 教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 3 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■ メールアドレス sugitani@kctc.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: システムプログラム a			
英文名: System Program a			
担当者: 杉谷 誠弥		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「ガイダンス及びオペレーティングシステムの歴史」 [予習内容]: オペレーティングシステムの歴史について調べる こと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「オペレーティングシステムの役割」 [予習内容]: オペレーティングシステムの役割について調べる こと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「I/O デバイスの仕組み」 [予習内容]: I/O デバイスの仕組みについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「I/O デバイスの割込み」 [予習内容]: I/O デバイスの割込みについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「多重レベル割込みと割込みベクタ」 [予習内容]: 多重レベル割込みと割込みベクタについて調べる こと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「入力装置とデータ転送」 [予習内容]: 入力装置とデータ転送について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「プロセスとスレッド」 [予習内容]: プロセスとスレッドについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「答案返却、解説」 [予習内容]: これまでの授業内容を復習し理解すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「プロセス切替」 [予習内容]: プロセス切替について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第10週 「カーネルの保護」 [予習内容]: カーネルの保護について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第11週 「スケジューリング」 [予習内容]: スケジューリングについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第12週 「競合状態」 [予習内容]: 競合状態について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第13週 「相互排除」 [予習内容]: 相互排除について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第14週 「ロック、セマフォ、条件変数、モニタ」 [予習内容]: ロック、セマフォ、条件変数、モニタについて調べる こと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第15週 「デッドロック(食事する哲学者の問題)」 [予習内容]: デッドロックについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 9 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験 時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 3 年次に学んだ「計算機システム」、4 年次で学んだ「情報工学」を前提 にして、オペレーティングシステムにおける基本的な概念や技法を理解し ます。具体的には、オペレーティングシステムの構成要素、割り込みの概 念、プロセスの管理、スレッド、マルチプログラミング、実行スケジューリ ング、プロセスの同期と通信、デッドロック、デバイス、ディスクアクセススケ ジューリングを理解します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (B-G1) (B-1) オペレーティングシステムの基礎知識を身に付ける。 2. (B-G1) (B-1) オペレーティングシステムにおけるプロセスの概念を理 解する。 3. (B-G1) (B-1) オペレーティングシステムにおけるスケジューリング法を 理解する。 4. (B-G1) (B-1) オペレーティングシステムにおけるプロセスの同期と通信 を理解する。 <p>ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマボリン ーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験: 答案返却・解説でフィードバックします。 課題: Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書 河野健二著「オペレーティングシステムの仕組み」朝倉書店社 ¥3,200+税(2007) ISBN: 978-4-2541-2705-8</p> <p>■参考文献 なし</p> <p>■関連科目 数学、情報処理、工学概論、計算機システム、情報工学、工学実験</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回) 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(80%)、課題(20%)によって評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満 「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこ と。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス s-sugitani@kctc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: システムプログラム b				
英文名: System Program b				
担当者: 杉谷 誠弥			開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。			アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
			ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	後期	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修		
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授業概要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「答案返却、解説及びガイダンス」 [予習内容]: 前期の授業内容を復習すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「メモリ管理 I (素朴なメモリ管理)」 [予習内容]: 素朴なメモリ管理について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「メモリ管理 II (抽象化)」 [予習内容]: メモリの抽象化について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「メモリ管理 III (多段ページテーブルとページの保護)」 [予習内容]: 多段ページテーブルとページの保護について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「メモリ管理 IV (仮想記憶)」 [予習内容]: 仮想記憶について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「ファイルシステム I (仕組み)」 [予習内容]: ファイルシステムの仕組みについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「ファイルシステム II (現実)」 [予習内容]: ファイルシステムの現実について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「ネットワーク」 [予習内容]: ネットワークについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「セキュリティ I (アクセス制御)」 [予習内容]: アクセス制御について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 10 週 「セキュリティ II (セキュリティの C.I.A.)」 [予習内容]: セキュリティの C.I.A. について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 11 週 「セキュリティ III (脅威)」 [予習内容]: セキュリティの脅威について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 12 週 「セキュリティ IV (モデル)」 [予習内容]: セキュリティモデルについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 13 週 「セキュリティ V (最近の動向)」 [予習内容]: セキュリティの最近の動向について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 14 週 「第 1 週から第 7 週までの復習」 [予習内容]: 第 1 週から第 7 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 15 週 「第 8 週から第 13 週までの復習」 [予習内容]: 第 8 週から第 13 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>			<p>■授業概要・方法等</p> <p>3 年次に学んだ「計算機システム」、4 年次で学んだ「情報工学」を前提にして、オペレーティングシステムにおける基本的な概念や技法を理解します。具体的には、オペレーティングシステムにおけるメモリ管理技法、ディスク管理技法、ネットワーク管理技法、セキュリティ管理技法を学びます。</p> <p>■使用言語</p> <p>日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1) (B-1) オペレーティングシステムの基礎知識を身に付ける。 (B-G1) (B-1) オペレーティングシステムにおけるプロセスの概念を理解する。 (B-G1) (B-1) オペレーティングシステムにおけるスケジューリング法を理解する。 (B-G1) (B-1) オペレーティングシステムにおけるプロセスの同期と通信を理解する。 <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に關与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>試験: 答案返却・解説でフィードバックします。 課題: Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書</p> <p>河野健二著「オペレーティングシステムの仕組み」朝倉書店社 ¥3,200+税(2007) ISBN: 978-4-2541-2705-8</p> <p>■参考文献</p> <p>なし</p> <p>■関連科目</p> <p>数学、情報処理、工学概論、計算機システム、情報工学、工学実験</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>種類: 定期試験(1 回) 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(80%)、課題(20%)によって評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)</p> <p>左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所</p> <p>3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>3 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス</p> <p>s-sugitani@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: 卒業研究			
英文名: Graduation Thesis Work			
担当者: 政清史晃 岩佐英彦 本田康子 小野朗子 川上申之介 坂東将光		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 通年	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 6	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>< 主な研究テーマ ></p> <p>・【政清史晃】 「マイコン、センサ、AR/VRを活用したシステムの開発」・・・遠隔授業参加、遠隔制御、ライトレースカーの制御、物体認識、仮想現実感についての研究を行う。</p> <p>・【岩佐英彦】 「ディープラーニング、AR/VR、CG、画像処理、IoT に関するシステムの開発」・・・対話型スマートスピーカー、ホログラムによる CG の立体視、聴覚障害者支援 AR システム、マークシート自動集計システム、農業 IoT データ可視化システム。開発環境は Linux 環境を推奨。</p> <p>・【本田康子】 「太陽系内の惑星や衛星の居住可能性に関する研究、系外惑星の探索に関する研究、照度計を用いた夜光観測」・・・適宜、観測データベースにアクセスして必要となるデータを抽出し、現象論的に説明するための研究を行う。</p> <p>・【小野朗子】 「地上測定データ、または人工衛星観測データを用いた地球環境の変化の解析」・・・局所的からグローバルな領域まで、観測データの収集、処理解析を行い、現状と変化の把握と、変化量を把握するための指数の開発などの研究を行う。</p> <p>・【川上申之介】 「道路交通関連画像の計算数理的研究・天文教育教材の開発」・・・適宜、道路交通関連画像を処理し最適な交通情報を得る。天文教育教材を開発し効果を測定する。</p> <p>・【坂東将光】 「量子情報処理、Web アプリケーション、ユーザインターフェース、各種解析処理に関する研究」・・・量子情報処理の理論的研究、Web アプリケーションの開発、各種シミュレーション、ユーザインターフェース、各種解析処理に関する研究を行う。開発環境は基本的に全て Linux (Gentoo Linux または Ubuntu) とする。</p> <p>日程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導教員および卒業研究テーマの選定(4 月) 2. 卒業研究(4~12月) 各指導教員のもとで研究を遂行。具体的方法は各指導教員に委ねます。 3. 卒業研究中間ポスター発表(10月) 研究背景・目的・全体計画・中間までの進捗について発表し、教員が研究内容の理解度、進捗、発表態度を精査します。 4. 卒業論文提出(中間提出:12 月、最終提出:2 月) 5. 卒業研究最終発表(2 月)卒業論文をもとに卒業研究成果を全員が発表します。研究内容、発表態度、質疑応答等を採点します。 		<p>■授業概要・方法等</p> <p>各分野の調査・実験・研究を行い、その成果を卒業論文としてまとめることによって自主的研究遂行能力を養成します。高専 5 年間にわたる教育の総仕上げの意味合いを有する重要な科目です。なお優秀卒業研究発表者を選出し 3 月に行われる電気学会主催「高専卒業研究発表会」にて発表を行います。</p> <p>■使用言語</p> <p>日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (B-G1) (B-G2) (B-G3) (B-1) (B-2) (B-3) 研究の遂行を通して電気・電子・情報・通信工学に関する高度な専門知識と実験遂行技術を習得する。 2. (B-G1) (B-G2) (B-1) (B-2) 自主的に研究や実験などを立案、計画、管理できる能力を身に付ける。 3. (B-G1) (B-G2) (C-G1) (B-1) (B-2) (C-1) 習得した知識をもとに創造性を発揮する。 4. (E-G1) (E-1) 論文作成や研究発表を通して文章表現力、プレゼンテーション等のコミュニケーション能力を身に付ける。 <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B、C および E の達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>各担当者が指示します。</p> <p>■教科書</p> <p>各担当者が指示します。</p> <p>■参考文献</p> <p>各担当者が指示します。</p> <p>■関連科目</p> <p>これまで履修した科目</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 内容の審査、方式: 総合卒業研究論文、中間発表、最終発表をもって試験にかえます。最終成績: 定期考査成績の平均とする。</p> <p>60 点以上「合」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究室で配布したプリント等の資料で予習をしておいて下さい。 2. 研究内容等について理解困難な場合はオフィスアワーを利用するなどして質問して下さい。 3. 図書館にある専門書を活用して考察して下さい。 <p>■教員所在場所</p> <p>政清、岩佐、本田、坂東: 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室、小野: 本館 2 階教務部、川上: 本館 2 階入試部</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス</p> <p>川上申之介 kawakami@ktc.ac.jp、坂東将光 bando@ktc.ac.jp、小野朗子 ono@ktc.ac.jp、本田康子 honda@ktc.ac.jp、政清史晃 masakiyo@ktc.ac.jp、岩佐英彦 iwasa@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>川上申之介 水曜日 9 限、小野朗子 水曜日 9 限、坂東将光 木曜日 9 限、本田康子 水曜日と金曜日の 16:30-17:00、政清史晃 水曜日 11:30-12:15、岩佐英彦 金曜日 15:30-17:05</p>	

科目名: 工学実験 5			
英文名: Experiments of Electrical and Information Engineering 5			
担当者: 仲森昌也 坂東将光		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 6	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 ガイダンス 第 2 週～25 週 小グループ単位で下記テーマ 1～8 をローテーションにより実験実施 第 26 週～30 週 レポート指導・試問</p> <p>[実験テーマ 1] (1)「サーバの構築と FTP ファイル転送実験」、「Raspberry Pi を用いた電子制御実験」Linux をインストールし、各種サーバを構築する。次に FTP ファイル転送 の実験も行う。また、Raspberry Pi を用いて、OS を入れるなど環境を構築し、Python 言語の演習と電子制御実験を行う。 (2)「FPGA ボードによる論理回路実験とスペクトラムアナライザによる各種波形の測定」FPGA ボードを使った制御実験を行う。また、スペクトラムアナライザの取り扱い方を学び、各種波形の測定やフィルタの特性を測定する。</p> <p>[実験テーマ 2] (1)「PIC、Arduino 等のマイコンによる電子制御回路の製作と実験」PIC、Arduino などを使い、電子回路を実際に製作し、プログラミングを行い、電子制御の実験を行う。 (2)「電子回路のシミュレーションと製作・特性測定」回路シミュレータを PC にインストールし、電子回路のシミュレーション実験を行う。また、実際に製作した実験結果とも比較する。</p> <p>[実験テーマ 3] 「ロボット制御実験」 (1) Java、Python、C、C#、統合環境等いろいろなコンピュータ言語を用いてアーム型ロボットの制御の実習を行う。 (2) 赤外線通信、デジタルコンパス、光センサ、ジャイロスコープ、加速度計、モーターエンコーダーなどを搭載しプログラミング可能なボール型ロボットの制御の実習を行う。</p> <p>[実験テーマ 4] 「PLC によるシーケンス制御」プログラマブルロジックコントローラを用いてラダー図からプログラム入力を行い、シーケンス制御を学習する。</p> <p>[実験テーマ 5] 「Web サーバにおけるサイバーセキュリティと LaTeX による組版処理」Linux サーバに対してインジェクション攻撃やディレクトリトラバーサル攻撃等を実験する。この実験のレポートは LaTeX を用いて作成する。</p> <p>[実験テーマ 6] 「Arduino によるオムニホイール制御と LaTeX による組版処理」Arduino を用いてオムニホイールの制御実験を行う。この実験のレポートは LaTeX を用いて作成する。</p> <p>[実験テーマ 7] 「創造性応用製作実験」 これまで学んだ実験の応用実験や各自でテーマを決めて、オリジナルのソフト開発もしくはオリジナルの電子制御製作などの実験を行う。</p> <p>[実験テーマ 8] 「学会主催の学生向け講演会が開催された場合は、その聴講レポート」または、「本校主催の土曜公開講座(工学系)の聴講レポート」</p>		<p>■授業概要・方法等 技術者をめざす高専の学生を対象に、1 年間に 12 テーマ(+応用 1 テーマ)の実験を行います。実験日前に予習レポートを作成し、学生が主体となって実験装置を選択し、実験を行い、実験結果をレポートにまとめ、結果に対する検討を行って、提出します。提出されたレポートに対して、試問またはプレゼンテーションを行い成果報告とします。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(B-G1)(B-1)ハードウェア・ソフトウェアの両面から実験によって体得することで、講義で習ったことの理解を深める。 2.(B-G2)(B-2) 実践的な問題に対して解決に至るまでの応用力を養う。 3.(A-G2)(B-2) コンピュータを活用して実験データの集計・分析や報告書を作成することができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 レポート指導において、各担当教員が個別にレポート内容について指導する。</p> <p>■教科書 各担当者が作成したオリジナル資料</p> <p>■参考文献 指定しない</p> <p>■関連科目 物理、数学、電気回路、情報処理、電子回路</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験なし 方式: 実験レポートや実験の際に制作した作品を評価し、ペーパーテストは実施しません。 担当教員ごとの成績: 実験レポート(100%)により評価し、出席状況、実験中の態度、レポート提出期日に問題のあるものは減点(最大 40 点)を行います。 最終成績: 担当教員ごとの成績をテーマ数に重みづけしたものを平均したものとします。但し、レポートについて 1 テーマでも未合格(60 点未満)がある場合は、不合格となります。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)とレポート 1. 配布したプリントに示した、目的・原理・実験方法を予習しておき、予習レポートを作成します。 2. 当日中に実験した結果を整理して、数値データの実験結果はグラフ化を行う。実験内容等について理解困難な場合はオフィスアワーを利用するなどして質問をする。 3. 図書館にある専門書を活用して、得られた実験結果に対する考察を行い、レポートを完成させる。</p> <p>■教員所在場所 仲森昌也: 本館 2 階 入試部 坂東将光: 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス 仲森昌也: nakamori@ktc.ac.jp、坂東将光: bando@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 仲森昌也: 木曜日 9 限、坂東将光: 木曜日 9 限</p>	

工学実験 5 ルーブリック

各実験レポート毎に以下の基準で採点を行う。

- 各レポートの合格期限は実験終了後 4 週間とする（土日祝日長期休暇定期試験を含む）。
- 提出方法はガイダンスで指示された方法とする。
- 合格基準に満たない場合はレポートを返却し、合格基準に達するまで再提出が必要となる。
- 合格期限以降にレポートが提出された場合、理解に達していないものと解釈し、担当教員がレポートに加えて実験についての試問を課す。試問を課された場合、レポートと試問の両方に合格した場合に合格基準に達したと判断する。
- 各レポートの点数を平均（小数点切り捨て）したものを工学実験 5 の成績とする。
- 合格基準に達したレポートは、80 点以上の 3 段階(A:100 点, B:90 点, C:80)点で評価する。また、実験レポート及び予習レポートの提出状況、出席状況、実験中の態度によって、最大で 40 点の減点を行う。全てのレポートあるいは試問の中に一つでも不合格がある場合は、教科の成績は不合格となる。（下表参照）

各レポートの評価	評価基準
A (100 点)	合格基準を満たし、全ての項目が適切であり、かつ応用的な要素を十分に含む。
B (90 点)	合格基準を満たし、全ての項目が適切であるが、応用的な要素が十分でない。
C (80 点)	合格基準を満たすが、項目および応用的な要素に十分でない部分がある。

減点項目	基準
最大 40 点	合格期限以内に合格していない、予習レポートを期限内に提出していない、実験に欠席した、実験中の態度が適切でない、実験機器の取り扱いが適切でない

合格基準に達するための最低条件

- 各実験で定められた様式に沿ったレポートを作成すること。
- 各実験で定められた実験課題を完了していること。
- 表紙および各項目(目的、使用機器、手順、結果、考察)の各項目が実験に沿った十分な内容であること。
- 他の人の内容を複製していないこと。あるいは他の人に内容を複製させていないこと。
- 試問が課された場合は、それに合格していること。

科目名: 制御工学 a				
英文名: Control Engineering a				
担当者: 坂東 将光			開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 該当なし			アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
			ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修		
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授業概要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 自動制御の発展 [予習内容]: 自動制御の発展について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 システムと制御 [予習内容]: 一般的なシステムと制御について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 開ループ制御と閉ループ制御 [予習内容]: 開ループと閉ループ制御について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 フィードバック制御系の基本構成 [予習内容]: フィードバック制御系について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 ブロック線図の簡単化 [予習内容]: ブロック線図について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 フィードバックの効果 [予習内容]: フィードバックの効果について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 フィードバック制御系の性能 [予習内容]: フィードバック制御系の性能について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 中間テスト、答案返却、解説 [予習内容]: これまでの授業内容を復習しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 基礎数学 複素数表示と計算 [予習内容]: 複素数について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第10週 基礎数学 [予習内容]: 制御工学で用いる数学について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第11週 フーリエ変換 [予習内容]: フーリエ変換について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第12週 ラプラス変換とラプラス逆変換 [予習内容]: ラプラス変換について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第13週 伝達関数 [予習内容]: 伝達関数について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第14週 周波数伝達関数と周波数応答 [予習内容]: 周波数伝達関数について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第15週 試験前演習 [予習内容]: これまでの授業内容を復習しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 回から 第 15 回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>			<p>■授業概要・方法等 自動制御は、入出力関係に着目した伝達関数でシステムを記述する古典制御と、内部状態を示す状態方程式でシステムを記述する現代制御に区分できます。ここでは古典制御の理論について講義を進めます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1)(B-1)微分方程式やラプラス変換など基礎数学の基礎知識を習得する。 (B-G1)(B-1)フィードバック制御系の基本構成や効果や性能について理解する。 <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。</p> <p>■教科書 樋口龍雄著「自動制御理論」森北出版 ISBN-13 : 978-4627726406</p> <p>■参考文献 指定しない</p> <p>■関連科目 物理、数学、応用数学、電気回路</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)、方式: 記述式 期考成績: 定期試験(100%) として評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とする。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス bando@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜日(16:20～17:05)</p>	

科目名: 制御工学 b				
英文名: Control Engineering b				
担当者: 坂東 将光			開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 該当なし			アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
			ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	後期	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修		
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授業概要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 答案返却・解答、ナイキスト線図 [予習内容]: ナイキスト線図について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 基本伝達関数の特性 比例要素、微分要素、積分要素 [予習内容]: 基本伝達関数について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 1 次遅れ要素、1 次進み要素 [予習内容]: 1 次遅れ要素と 1 次進み要素について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 2 次要素 [予習内容]: 2 次要素について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 むだ時間要素 [予習内容]: むだ時間要素について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 安定性、安定条件 [予習内容]: 安定性と安定条件について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 ラウスの安定判別法 [予習内容]: ラウスの安定判別法について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 中間テスト、答案返却、解説 [予習内容]: これまでの授業内容を復習しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 ナイキストの安定判別法 [予習内容]: ナイキストの安定判別法について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 10 週 速応性と定常性について [予習内容]: 速応性と定常性について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 11 週 時間特性 [予習内容]: 時間特性について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 12 週 速応性 [予習内容]: 速応性について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 13 週 定常偏差 [予習内容]: 定常偏差について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 14 週 フィードバック制御系の設計 [予習内容]: フィードバック制御系の設計について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 15 週 試験前演習 [予習内容]: これまでの授業内容を復習しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 回から第 15 回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>			<p>■授業概要・方法等 自動制御は、入出力関係に着目した伝達関数でシステムを記述する古典制御と、内部状態を示す状態方程式でシステムを記述する現代制御に区別できます。ここでは古典制御の理論について講義を進めます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1) (B-G2) (B-1) (B-2) フィードバック制御系の安定性について条件および判別法を習得します。 (B-G1) (B-G2) (B-1) (B-2) 基本的伝達特性を理解し、制御系の設計と特性解析を行える能力を習得します。 <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。</p> <p>■教科書 樋口龍雄著「自動制御理論」森北出版 ISBN-13 : 978-4627726406</p> <p>■参考文献 指定しない</p> <p>■関連科目 物理、数学、応用数学、電気回路</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回), 方式: 記述式 期考成績: 定期試験(100%) として評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とする。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス bando@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 木曜日(16:20～17:05)</p>	

科目名: 基礎ロボット論a			
英文名: Robots Engineering a			
担当者: 政清 史晃		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容:情報通信技術者としてエンジニアリング会社に勤務。情報通信設備の設計、ソフトウェア作成等を担当		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1週 ロボット工学とは、各種ロボット(1) [予習内容]:ロボット工学の発展について調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 2週 各種ロボット(2) [予習内容]:各種ロボットの種類について調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 3週 ロボットの運動学(運動学の基礎) [予習内容]:運動学の基礎について調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 4週 運動学のためのベクトル・座標変換 [予習内容]:ベクトル・座標変換について調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 5週 順運動学 [予習内容]:順運動学について調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 6週 逆運動学(1) [予習内容]:逆運動学の基礎について調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 7週 逆運動学(2) [予習内容]:逆運動学の発展について調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 8週 中間テスト、答案返却、解説 [予習内容]:これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第 9週 順運動学と逆運動学の javascript によるシミュレーション(1) [予習内容]:javascript によるシミュレーションについて調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第10週 順運動学と逆運動学の javascript によるシミュレーション(2) [予習内容]:javascript によるシミュレーションについて調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第11週 順運動学と逆運動学の javascript によるシミュレーション(3) [予習内容]:javascript によるシミュレーションについて調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第12週 3D-CAD によるシミュレーション(1) [予習内容]:3D-CAD によるシミュレーションについて調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第13週 3D-CAD によるシミュレーション(2) [予習内容]:3D-CAD によるシミュレーションについて調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第14週 3D-CAD によるシミュレーション(3) [予習内容]:3D-CAD によるシミュレーションについて調べること [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>第15週 試験前演習 [予習内容]:これまでの授業内容を復習しておくこと [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること</p> <p>定期試験 第 1 回から第 15 回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 ロボット工学に関する基礎知識を身に付けます。ロボット工学と社会の関わりについて理解し、順運動学・逆運動学等について学びます。 担当教員の実務経験をもとに、上記の内容について解説します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1)(B-1)ロボット工学の基礎知識と社会との関わりを理解する。 2. (B-G1)(B-1) 順・逆運動学や 3D によるシミュレーションを身につけることができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。</p> <p>■教科書 プリント等の資料を配布します。</p> <p>■参考文献 絵とき「ロボット工学」基礎のきそ 日刊工業新聞、ロボット工学の基礎 森北出版、ROBO-ONE で進化する二足歩行ロボットの造り方 オーム社</p> <p>■関連科目 計算機システム、制御工学、メカトロニクス概論</p> <p>■成績評価方法および基準 期考査成績:定期試験(100%)【授業態度・出席状況が悪い場合は最大 20%減点】で評価します。 最終成績:2 回の定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」。 ただし、授業ノートの未記述および課題の未提出者は「不可」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等)・・・ シラバスの項目に従って予習や復習を行い、わからないことは図書やインターネットで調べて授業内容について理解しようと努めること。このような予習・復習を行うことにより、知識の定着化を図る。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス masakiyo@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜日(11:30～12:15)</p>	

科目名: 基礎ロボット論b			
英文名: Robots Engineering b			
担当者: 政清 史晃		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 情報通信技術者としてエンジニアリング会社に勤務。情報通信設備の設計、ソフトウェア作成等を担当		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 制御情報
科目種別: 必修	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授業概要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 電子回路の配線設計・基板設計(1) [予習内容]: 電子回路の配線設計・基板設計について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 電子回路の配線設計・基板設計(2) [予習内容]: 電子回路の配線設計・基板設計について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 電子回路の配線設計・基板設計(3) [予習内容]: 電子回路の配線設計・基板設計について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 FPGA, Verilog-HDL 制御演習(1) [予習内容]: FPGA, Verilog-HDL について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 FPGA, Verilog-HDL 制御演習(2) [予習内容]: FPGA, Verilog-HDL について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 FPGA, Verilog-HDL 制御演習(3) [予習内容]: FPGA, Verilog-HDL について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 マイコン制御実習(1) [予習内容]: 作成したいロボットについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 マイコン制御・回路製作実習(1) [予習内容]: 作成したいロボットの電子回路について調べる(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 マイコン制御・回路製作実習(2) [予習内容]: 作成したいロボットの電子回路について調べる(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 10 週 マイコン制御・回路製作実習(3) [予習内容]: 電子部品の仕様について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 11 週 マイコン制御・回路製作実習(4) [予習内容]: 制御プログラムについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 12 週 マイコン制御・回路製作実習(5) [予習内容]: 回路製作の準備をする(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 13 週 マイコン制御・回路製作実習(5) [予習内容]: 回路の動作確認・修正をしておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 14 週 マイコン制御・回路製作実習についての発表 [予習内容]: プレゼンテーション資料を作成しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 15 週 試験前演習 [予習内容]: これまでの授業内容を復習しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 回から第 15 回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 ロボットの制御方法を身に付ける。実際にマイコンを使った演習を通じて、ロボットの制御を実践的に学びます。 担当教員の実務経験をもとに、上記の内容について解説します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1)(B-1)ロボット制御用電子回路、FPGA について理解する 2. (B-G1)(B-1) 順・逆運動学や 3D によるシミュレーションを身につける。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。</p> <p>■教科書 プリント等の資料を配布します。</p> <p>■参考文献 絵とき「ロボット工学」基礎のきそ 日刊工業新聞、ロボット工学の基礎 森北出版、ROBO-ONE で進化する二足歩行ロボットの造り方 オーム社</p> <p>■関連科目 計算機システム, 制御工学, メカトロクス概論</p> <p>■成績評価方法および基準 期考査成績: 定期試験(100%)【授業態度・出席状況が悪い場合は最大 20%減点】で評価します。 最終成績: 定期考査成績を最終成績とします。 90 点以上「秀」, 80 点以上～90 点未満「優」, 70 点以上～80 点未満「良」, 60 点以上～70 点未満「可」, 60 点未満「不可」。 ただし、授業ノートの未記述および課題の未提出者は「不可」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)・・・ シラバスの項目に従って予習や復習を行い、わからないことは図書やインターネットで調べて授業内容について理解しようと努めること。このような予習・復習を行うことにより、知識の定着化を図る。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス masakiyo@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水曜日(11:30～12:15)</p>	

科目名: 電子回路 a			
英文名: Electronic Circuits a			
担当者: 近澤 信一		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容:技術者として電気・半導体メーカーに勤務。電気機器・半導体プロセスの開発・設計に従事。		アクティブ・ラーニングの形態:該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング:該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 必須	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 ダイオードの動作とダイオード-抵抗回路 [予習内容]:ダイオードの働き・種類について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 トランジスタの動作・増幅回路の原理 [予習内容]:トランジスタの働き・種類について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 トランジスタの小信号等価回路 [予習内容]:トランジスタの等価回路について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 h パラメータの等価回路・物理的意味 [予習内容]:h パラメータについて調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 増幅回路の入出力整合 [予習内容]:整合について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 電力利得・dB の計算 [予習内容]:利得について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 トランジスタのバイアス回路 [予習内容]:バイアス回路について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 直流負荷線 [予習内容]:負荷線について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>中間試験</p> <p>第 1~8 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p> <p>第 9 週 中間テスト・答案返却・解答解説、 [予習内容]:ここまでの増幅回路について総復習すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第10週 交流負荷線 [予習内容]:交流負荷線について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第11週 CR 結合増幅回路 [予習内容]:増幅回路の種類について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第12週 トランス結合増幅回路 [予習内容]:トランスについて調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第13週 直接結合増幅回路、差動増幅回路、ダーリントン接続回路 [予習内容]:直流増幅について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第14週 負帰還増幅回路、高周波用増幅回路 [予習内容]:高周波増幅、負帰還増幅について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第15週 総復習 [予習内容]:第9週から第14週で習ったことについて読み直し、理解が不十分な箇所を抽出する。(60 分) [復習内容]:講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>期末試験 第 9~15 週までの講義内容について筆記試験を行う(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 電子回路はダイオード、トランジスタなどの非線形能動素子を含んだ電気回路ですが、これらのデバイスの特性、これらを用いたアナログ増幅回路の動作、解析手法等を理解します。 ここでは、設計現場での実務経験をもとに、上記の内容について解説します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1)(B-1)ダイオードとトランジスタの動作を理解する。 2. (B-G1)(B-1)トランジスタの等価回路・バイアス回路を理解する。 3. (B-G1)(B-1)入力信号の周波数の違いによる各種増幅回路を理解する。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー Bの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、各学生に試験答案の開示と模範解答の配布を行う。 課題がある場合は、授業時間内に解答する。</p> <p>■教科書 雨宮好文 著「現代 電子回路学 [I]」オーム社 ISBN:978-4274127496</p> <p>■参考文献 「定本 トランジスタ回路の設計」鈴木雅臣 著 CQ出版 「基礎電子回路演習」雨宮好文 著 オーム社</p> <p>■関連科目 電気回路</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)、方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%) 【課題レポートがある場合は定期考査成績(80%)、課題レポート(20%)】で評価します。 授業中ノートを取らない・説明していても聞かないなど態度・出席状況が悪い場合は、課題点より減点します(最大 20 点)。 最終成績:2 回の定期考査成績の平均で評価します。 90 点以上「秀」、80 点以上~90 点未満「優」、70 点以上~80 点未満「良」、60 点以上~70 点未満「可」、60 点未満「不可」。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3号館1階 電気電子・情報系教員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に Web Class にて実施します。</p> <p>■メールアドレス chikazawa@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月、火、木曜日(12:15~13:00)</p>	

科目名: 電子回路 b			
英文名: Electronic Circuits b			
担当者: 近澤 信一		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 技術者として電気・半導体メーカーに勤務。電気機器・半導体プロセスの開発・設計に従事。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 制御情報
科目種別: 必須	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 発振回路のしくみ・LC 発振回路 [予習内容]: 発振の動作、LC 発振回路の種類を調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 CR 移相型発振回路、その他の発振回路 [予習内容]: CR 移相型発振回路の種類について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 オペアンプ(演算増幅器)について [予習内容]: オペアンプの特徴や用途について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 オペアンプを使った応用回路の例題演習 [予習内容]: 微分回路・積分回路について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 パルス波形について [予習内容]: パルス波形の定義、ひずみ率について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 ダイオード-抵抗回路の出力波形 (1) [予習内容]: ダイオードの種類や働きについて復習すること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 ダイオード-抵抗回路の出力波形(2) [予習内容]: ダイオードによる波形整形回路を調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 簡単な CR 回路の過渡現象 [予習内容]: CR、RL 電気回路の過渡現象について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 CR+ダイオード回路のパルスレスポンス [予習内容]: CRダイオード回路のパルスレスポンスについて調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第10週 トランジスタ回路のパルスレスポンス [予習内容]: トランジスタスイッチの応答速度を調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第11週 加速コンデンサの設計・例題演習 [予習内容]: 加速コンデンサについて調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第12週 トランジスタ・スイッチング回路の設計と解析方法 [予習内容]: トランジスタスイッチ回路の設計について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第13週 設計・解析の例題演習 [予習内容]: 設計したトランジスタ・スイッチング回路の検証方法について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第14週 フリップフロップ回路の設計と解析方法 [予習内容]: FF回路の設計方法について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第15週 設計・解析の例題演習 [予習内容]: トリガ回路の設計解析方法について調べること(60 分) [復習内容]: 講義範囲を総復習し、理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第1～15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 電子回路はダイオード、トランジスタなどの非線形能動素子を含んだ電気回路ですが、これらのデバイスの特性、これらを用いたアナログ増幅回路の動作、解析手法等を理解します。 ここでは、設計現場での実務経験をもとに、上記の内容について解説します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1)(B-1)ダイオードとトランジスタの動作を理解する。 2. (B-G1)(B-1)トランジスタの等価回路・バイアス回路を理解する。 3. (B-G1)(B-1)入力信号の周波数の違いによる各種増幅回路を理解する。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー Bの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、各学生に試験答案の開示と模範解答の配布を行う。 課題がある場合は、授業時間内に解答する。</p> <p>■教科書 雨宮好文 著「現代 電子回路学 [I]」オーム社 ISBN: 978-4274127496</p> <p>■参考文献 「電子回路 3」渡辺英夫 長島富太郎 共著 森北出版 「パルス回路の考え方」雨宮好文 他著 オーム社</p> <p>■関連科目 電気回路</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)、方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%) 【課題レポートがある場合は定期考査成績(80%)、課題レポート(20%)】で評価します。 授業中ノートを取らない・説明していても聞かないなど態度・出席状況が悪い場合は、課題点より減点します(最大 20 点)。 最終成績: 2 回の定期考査成績の平均で評価します。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3号館1階 電気電子・情報系教員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月に Web Class にて実施します。</p> <p>■メールアドレス chikazawa@kct.ac.jp ■オフィスアワー 月、火、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: データベース論 a			
英文名: Database Theory a			
担当者: 杉谷 誠弥		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「ガイダンス及びデータベースとは」 [予習内容]:教科書第 1 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「関係表とは」 [予習内容]:教科書第 2 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「データベースの代数 I」 [予習内容]:教科書第 3 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「データベースの代数 II」 [予習内容]:教科書第 3 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「データベースの代数 III」 [予習内容]:教科書第 3 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「データベース言語 SQL」 [予習内容]:SQL について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「第 1 週から第 6 週までの復習」 [予習内容]:第 1 週から第 6 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「答案返却、解説」 [予習内容]:これまでの授業内容を復習し理解すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「演習 I」 [予習内容]:SQL 操作が行えるように準備をすること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第10週 「演習 II」 [予習内容]:SQL 操作について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第11週 「演習 III」 [予習内容]:SQL 操作について調べること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第12週 「関係表の正規化 I」 [予習内容]:教科書第 4 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第13週 「関係表の正規化 II」 [予習内容]:教科書第 4 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第14週 「関係表の正規化 III」 [予習内容]:教科書第 4 章を読むこと(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第15週 「第 9 週から第 14 週までの復習」 [予習内容]:第 9 週から第 14 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]:授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 9 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 データベースを活用した応用ソフトウェアの開発に必要なデータベースの基礎理論、仕組み、利用手法およびデータベース構築の基礎となるストレージシステムについて学びます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1)(B-1) データベースの基本概念、データベースの構造を理解する。 (B-G1)(B-1) 関係表の基本概念、作り方、代数、正規形を理解する。 (B-G2)(B-2) 索引技術、トランザクションの同時実行制御、安全で停止しないデータベース技術を理解する。 <p>ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に参与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験:答案返却・解説でフィードバックします。 課題:Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書 植村俊亮著「入門データベース」オーム社</p> <p>■参考文献 なし</p> <p>■関連科目 基礎数学、線形代数、マルチメディア工学、データ構造とアルゴリズム</p> <p>■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2 回) 方式:記述式 定期考査成績:定期試験(100%)によって評価します。 最終成績:定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス sugitani@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: データベース論 b			
英文名: Database Theory b			
担当者: 杉谷 誠弥		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 制御情報
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「答案返却、解説及びガイダンス」 [予習内容]: 前期第 10 週から第 14 週の内容について調べる こと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「基底表と視野表 I」 [予習内容]: 教科書第 5 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「基底表と視野表 II」 [予習内容]: 教科書第 5 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「基底表と視野表 III」 [予習内容]: 教科書第 5 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「内部スキーマ I」 [予習内容]: 教科書第 6 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「内部スキーマ II」 [予習内容]: 教科書第 6 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「内部スキーマ III」 [予習内容]: 教科書第 6 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「安全なデータベース I」 [予習内容]: 教科書第 7 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「安全なデータベース II」 [予習内容]: 教科書第 7 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 10 週 「安全なデータベース III」 [予習内容]: 教科書第 7 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 11 週 「演習 IV」 [予習内容]: SQL 操作について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 12 週 「演習 V」 [予習内容]: SQL 操作について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 13 週 「演習 VI」 [予習内容]: SQL 操作について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 14 週 「第 1 週から第 14 週までの復習 I」 [予習内容]: 第 1 週から第 14 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 15 週 「第 1 週から第 14 週までの復習 II」 [予習内容]: 第 1 週から第 14 週の内容を復習すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験 時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 データベースを活用した応用ソフトウェアの開発に必要なデータベースの基礎理論、仕組み、利用手法およびデータベース構築の基礎となるストレージシステムについて学びます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1)(B-1) データベースの基本概念、データベースの構造を理解する。 (B-G1)(B-1) 関係表の基本概念、作り方、代数、正規形を理解する。 (B-G2)(B-2) 索引技術、トランザクションの同時実行制御、安全で停止しないデータベース技術を理解する。 <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に参与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験: 答案返却・解説でフィードバックします。 課題: Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書 植村俊亮著 「入門データベース」 オーム社</p> <p>■参考文献 なし</p> <p>■関連科目 基礎数学、線形代数、マルチメディア工学、データ構造とアルゴリズム</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回) 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%)によって評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 3 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス sugitani@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: 電気回路Ⅱa		英文名: Electric Circuit Ⅱa	
担当者: 松田 英人		開講年度: 2019年度(令和元年度)	
実務経験の内容: 電気回路技術者として電気会社に勤務。非常灯回路・モニター回路の研究開発を担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期
科目種別: 選択	単位数: 1	コース: 制御情報	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		単位の種別: 履修	
授業概要		授業概要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 「対称三相交流」 [予習内容]: 三相交流について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第2週 「対称Y形起電力とY形負荷・Δ形負荷」 [予習内容]: 対称Y形起電力と負荷について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第3週 「対称Δ形起電力とY形負荷・Δ形負荷」 [予習内容]: 直流RC回路方程式について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第4週 「多相交流の電力・ブロンデルの定理・二電力計法」 [予習内容]: 多相交流の電力について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第5週 「非対称三相交流回路」 [予習内容]: 非対称三相交流について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第6週 「Y結線とΔ結線の等価変換」 [予習内容]: Y結線とΔ結線の等価変換について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第7週 「対称座標法」 [予習内容]: 対称座標法について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第8週 「ここまでのまとめと総復習演習問題1」 [予習内容]: 第1週から第7週で学習した事を調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第9週 「中間審査 答案返却・解答 三相交流発電機の基本式」 [予習内容]: 三相交流発電機について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第10週 「三相交流回路の計算」 [予習内容]: 三相交流回路について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第11週 「一般線形回路解析の諸法則」 [予習内容]: 一般線形回路解析について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第12週 「回路網のグラフ理論の概念」 [予習内容]: 回路網のグラフ解析について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第13週 「閉路方程式・回路網に関する定理」 [予習内容]: 閉路方程式に関する定理について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第14週 「相反定理・補償の定理・はしご形回路」 [予習内容]: 相反定理・補償の定理について調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第15週 「ここまでのまとめと総復習演習問題2」 [予習内容]: 第9週から第14週で学習した事を調べること(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>定期試験 第1回から第15回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50分)</p>		<p>■授業概要・方法等 電気回路は、電気磁気学とともに電気・電子・情報の分野では、重要な基礎学問です。 三相交流を中心とした多相交流回路の基礎及び一般線形回路解析の諸法則について学習します。</p> <p>■使用言語 日本語(専門用語については、英語の表現も紹介する。)</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1)(B-1)三相結線(Y結線とΔ結線)において相電圧と相電流及び線間電圧と線電流の位相と大きさの関係を理解し、回路計算をする。 2. (B-G1)(B-1)相反の定理及び補償の定理を理解し、電気回路の計算を解く。 3. (B-G1)(B-1)非対称起電力を対称起電力成分(零相、正相、逆相)和で表す。 ことができるようになります。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了時に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。課題については、授業中の課題は授業時間内に解答する。</p> <p>■教科書 週ごとに履修する内容のプリントを配布します。</p> <p>■参考文献 「電気学会大学講座 電気回路論 改訂版」平山博・大附辰夫著(電気学会) ISBN:978-4-88686-265-5 「基礎電気回路1」有馬 泉、岩崎晴光 著(森北出版) ISBN:978-4-627-73183-7 「電気回路 1 直流・交流回路編」早川義晴、松下祐輔、茂木仁博著(コロナ社) ISBN:978-4-339-00380-2</p> <p>■関連科目 数学、通信工学、電気回路、電子回路</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回)、方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%)として評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とします。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 授業で習ったことを身近なものへ適応・応用し、その理解を深めること</p> <p>■教員所在場所 3号館1F 電気電子・情報系教員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に Web Class にて実施します。 第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス matsuda@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜日 12:15～13:00</p>	

科目名: 電気回路Ⅱb		英文名: Electric Circuit Ⅱb	
担当者: 松田 英人		開講年度: 2019 年度(令和 元年度)	
実務経験の内容: 電気回路技術者として電気会社に勤務。非常灯回路・モニター回路の研究開発を担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	後期
			コース: 制御情報
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「 答案返却・解答 二端子対回路網 」 [予習内容]: 二端子対回路網について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 2 週 「 アドミタンス行列 」 [予習内容]: アドミタンス行列について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 3 週 「 インピーダンス行列 」 [予習内容]: インピーダンス行列について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 4 週 「 四端子定数 」 [予習内容]: 四端子定数について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 5 週 「 H 行列及び G 行列 」 [予習内容]: H 行列及び G 行列について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 6 週 「 二端子対回路網の接続組み合わせ 」 [予習内容]: 二端子対回路網の接続について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 7 週 「 映像パラメータ 」 [予習内容]: 映像パラメータについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 8 週 「 伝達定数の定義 」 [予習内容]: 伝達定数について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 9 週 「 対称二端子対回路 」 [予習内容]: 対称二端子対回路について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 10 週 「 二等分定理 」 [予習内容]: 二等分定理について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 11 週 「 一端子対回路網とインピーダンス 」 [予習内容]: 一端子対回路網について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 12 週 「 リアクタンス一端子対回路網 」 [予習内容]: リアクタンス一端子対回路について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 13 週 「 リアクタンス関数とその周波数特性 」 [予習内容]: リアクタンス関数について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 14 週 「 RL・RC 一端子対回路 」 [予習内容]: RL・RC 一端子対回路について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>第 15 週 「 ここまでのまとめと総復習演習問題 3 」 [予習内容]: 第 1 週から第 14 週で学習した事を調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること (30 分)</p> <p>定期試験 第 1 回から第 15 回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 電気回路は、電気磁気学とともに電気・電子・情報の分野では、重要な基礎学問です。 電子回路や伝送回路の回路解析に有用となる二端子対回路網及び二端子対回路網の基礎的な考え方を学び回路解析を修得します。</p> <p>■使用言語 日本語（専門用語については、英語の表現も紹介する。）</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1)(B-1)二端子対回路の四端子定数を求める。 (B-G1)(B-1)二端子対回路縦続接続の四端子定数を求める。 (B-G1)(B-1)二端子対回路の映像パラメータ・伝達定数を求める。 <p>ことができるようになります。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了時に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。課題については、授業中の課題は授業時間内に解答する。</p> <p>■教科書 週ごとに履修する内容のプリントを配布します。</p> <p>■参考文献 「電気学会大学講座 電気回路論 改訂版」 平山博・大附辰夫著（電気学会）ISBN:978-4-88686-265-5 「基礎電気回路1」 有馬 泉、岩崎晴光 著（森北出版）ISBN:978-4-627-73183-7 「電気回路 1 直流・交流回路編」 早川義晴、松下祐輔、茂木仁博 著（コロナ社）ISBN:978-4-339-00380-2</p> <p>■関連科目 数学、通信工学、電気回路、電子回路</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回), 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%)として評価します。 最終成績: 定期考査成績とします。 90 点以上「秀」, 80 点以上～90 点未満「優」, 70 点以上～80 点未満「良」, 60 点以上～70 点未満「可」, 60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 授業で習ったことを身近なものへ適応・応用し、その理解を深めること</p> <p>■教員所在場所 3 号館 1F 電気電子・情報系教員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2 月に Web Class にて実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス matsuda@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜日 12:15～13:00</p>	

科目名: オブジェクト指向設計 a			
英文名: Object-oriented design a			
担当者: 杉谷 誠弥		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 制御情報
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「ガイダンス及びオブジェクト指向とは」 [予習内容]: オブジェクト指向について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「オブジェクト指向分析 I (概論、UML)」 [予習内容]: UML について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「オブジェクト指向分析 II (クラス図とオブジェクト図)」 [予習内容]: UML クラス図とオブジェクト図について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「オブジェクト指向分析 III (シーケンス図)」 [予習内容]: 教科書第 3 章を読むこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「オブジェクト指向分析 IV (演習)」 [予習内容]: これまでの授業内容を復習しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「Java 言語 基礎的な文法 概論」 [予習内容]: Java 言語の文法について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「Java 言語 基礎的な文法 演習」 [予習内容]: 第 6 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「答案返却、解説」 [予習内容]: これまでの授業内容を復習し理解すること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「クラスとインスタンス 概論」 [予習内容]: クラスとインスタンスについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 10 週 「クラスとインスタンス 演習」 [予習内容]: 第 9 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 11 週 「カプセル化 概論」 [予習内容]: カプセル化について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 12 週 「カプセル化 演習」 [予習内容]: 第 11 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 13 週 「クラス間の関連」 [予習内容]: クラス間の関連について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 14 週 「継承 概論」 [予習内容]: 継承について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 15 週 「継承 演習」 [予習内容]: 第 14 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 9 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等 本授業では、オブジェクト指向設計/オブジェクト指向プログラミングについて解説を行なう。適宜演習時間を設け、Java 言語によるサンプルプログラムを使用することで具体的使用例を挙げ理解を深めます。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1)(B-1) クラス、オブジェクト、インスタンス、データメンバ、メソッド、継承等、オブジェクト指向設計の基本部分について理解する。 (B-G1)(B-1) GoF デザインパターンを用いた事例を Java でプログラミングする。 <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験: 答案返却・解説でフィードバックします。 課題: Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■ 教科書 なし(適宜資料配布)</p> <p>■ 参考文献 平澤章著 「オブジェクト指向でなぜつくるのか 第 2 版」 日経 BP マーケティング ¥2,400+税(2011) ISBN: 978-4-8222-8465-7</p> <p>■ 関連科目 基礎数学、線形代数、マルチメディア工学、データ構造とアルゴリズム</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回) 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%)によって評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこと。</p> <p>■ 教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■ メールアドレス s-sugitani@ktc.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: オブジェクト指向設計 b				
英文名: Object-oriented design b				
担当者: 杉谷 誠弥			開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: SE としてソフトウェア会社に勤務。詳細設計、コーディング、単体テスト、結合テストを担当。			アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
			ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	後期	コース: 制御情報
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修		
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授業概要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「答案返却、解説及びガイダンス」 [予習内容]: 前期第 10 週から第 14 週の内容について調べる こと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「ポリモルフィズム 概論」 [予習内容]: ポリモルフィズムについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「ポリモルフィズム 演習」 [予習内容]: 第 2 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 4 週 「インターフェイス 概論」 [予習内容]: インターフェイスについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「インターフェイス 演習」 [予習内容]: 第 4 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 6 週 「Iterator(1つ1つ数え上げる) 概論」 [予習内容]: Iterator について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「Iterator(1つ1つ数え上げる) 演習」 [予習内容]: 第 6 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 8 週 「Adapter(一皮かぶせて再利用) 概論」 [予習内容]: Adapter について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 9 週 「Adapter(一皮かぶせて再利用) 演習」 [予習内容]: 第 8 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 10 週 「Template Method(具体的な処理をクラスにまかせる) 概論」 [予習内容]: Template Method について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 11 週 「Template Method(具体的な処理をクラスにまかせる) 演習」 [予習内容]: 第 10 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 12 週 「Singleton(たった1つのインスタンス) 概論」 [予習内容]: Singleton について調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 13 週 「Singleton(たった1つのインスタンス) 演習」 [予習内容]: 第 12 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 14 週 「リファクタリング 概論」 [予習内容]: リファクタリングについて調べること(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>第 15 週 「リファクタリング 演習」 [予習内容]: 第 14 回の講義内容を理解しておくこと(60 分) [復習内容]: 授業内容を復習し理解すること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 週から第 15 週までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>			<p>■授業概要・方法等</p> <p>本授業では、オブジェクト指向設計の要となるポリモルフィズムとインターフェイスを学習し、その利用形態としてデザインパターンを学習します。適宜演習時間を設け、それぞれのパターンを、Java 言語のサンプルプログラムを使用して学習し、そのメリットや使用する場面の解説を行います。ポリモルフィズムとインターフェイスは理解しにくい面がありますが、サンプルプログラムを使用することでより具象的なレベルに落とし込んで、理解を深めます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> (B-G1)(B-1) インターフェイスや抽象クラスの再利用に於ける役割を、デザインパターンを通じて理解する。 (B-G1)(B-1) GoF デザインパターンを用いた事例を Java でプログラミングする。 <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験: 答案返却・解説でフィードバックします。 課題: Google Classroom のコメントでフィードバックします。</p> <p>■教科書 なし(適宜資料配布)</p> <p>■参考文献 結城浩著 「増補改訂版 Java 言語で学ぶデザインパターン入門」 ソフトバンククリエイティブ ¥3,800+税(2004) ISBN: 978-4-7973-2703-8</p> <p>■関連科目 基礎数学、線形代数、マルチメディア工学、データ構造とアルゴリズム</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回) 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(100%)によって評価します。 最終成績: 定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習に取り組むこと。 Google Classroom で配布する講義内容スライドにより復習に取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 3 号館 2 階 情報処理教育センター管理室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 3 月に授業アンケートを実施します。 第 1 週と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス s-sugitani@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日、水曜日、木曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: インターンシップ				
英文名: Internship				
担当者: 岩佐 英彦			開講年度: 2019年度(平成31年度)	
実務経験の内容: 独立系ソフトウェア会社取締役として、15年間ソフトウェアの企画・開発・販売の業務に従事。			アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
			ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期:	通年	コース: 制御情報
科目種別: 選択	単位数: 1~5		単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>各インターンシップ受け入れ先のカリキュラムに従います。</p>			<p>■授業概要・方法等</p> <p>ものづくり教育の一環として、実社会での実地訓練を通じてものを実現する能力を養成します。企業の現場や大学等の研究現場を体験し、そこに働く技術者の心構えや人間性に触れることで講義では得られない大きな教育効果を期待します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (D-G2)(D-2)企業における実務や研究現場の実態に触れ、将来の技術者・社会人としての自覚を持つ。 2. (B-G2)(B-2)問題解決へのアプローチの方法を学ぶ。 3. (C-G2)(C-2)社会体験を通じて礼儀作法、責任感、行動力を養う。 <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。</p> <p>■教科書 実習先指導員に委ねます。</p> <p>■参考文献 実習先指導員に委ねます。</p> <p>■関連科目 なし</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>種類: 試験なし</p> <p>最終成績: 実習終了後実習報告書を作成し実習日誌とともに学校に提出します。実習日誌および実習報告書の提出をもって単位認定を行います。単位数は37.5時間の実習で1単位、75時間で2単位とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)...</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ中の配布物の内容を復習し理解を確実にして下さい。また、実習内容をレポート用紙に記録して下さい。理解困難な部分は翌日、実習の担当講師に質問をしてください。 2. 実習内容レポートは、インターンシップ終了後、取りまとめて本校の担当教員に提出して下さい。 <p>■メールアドレス iwasa@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 金曜日 15:25~16:40</p>	